

平成27年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立印南小学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成27年4月21日(火)

(2) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 小学校第6学年 26名

教科に関する調査 国語、算数、理科

┌ 主として知識に関する問題(A)

└ 主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

┌ 児童質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等

└ 学校質問紙調査 ----- 指導方法に関する取組や人的・物的な
教育条件の整備の状況等

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

○漢字を正しく読んだり書いたりすることは良好であるが、「話の内容に対する聞き方の工夫」や「引用している言葉を書き抜く」に課題がある。

○「書くこと」は、比較的できているが、「話すこと、聞くこと」に課題がある。

(1) 国語A (知識)

◇漢字(信念をつらぬく)を読むのは、すべての児童ができています。[A¹一(2) 100%]

◇漢字(承知した)を読むのは、ほぼすべての児童ができています。[A¹一(2) 96.2%]

◆文を構成する主語と述語との照応関係を捉えるに課題がある。[A²二 57.7%]

◆話の内容に対する聞き方を工夫するに課題がある。[A³ 38.5%]

◆新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えるに課題がある。[A⁵ 二 7.7%]

(2) 国語B (活用)

◇登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読するは、多くの児童ができています。

[B³二 80.8%]

◇目的に応じ、中心となる語や文を捉えるは、多くの児童ができています。[B²一イ 88.5%]

◆目的や意図に応じ、新聞の割り付けをするに課題がある。[B¹二 61.5%]

◆文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くに課題がある。[B²三 42.3%]

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	国語 (A)	国語 (B)
話すこと・聞くこと	38.5	—
書くこと	84.6	63.5
読むこと	48.1	71.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.5	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

算 数

- 基礎的・基本的な知識・技能を問う問題については概ね良好であるが、領域別の図形に課題がある。
- 根拠となる図形の性質を言葉と記号を用いて記述することや示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めること、見積もりの結果を基に、根拠となる事柄を記述することに課題がある。

(1) 算数A (知識)

- ◇計算することは、相当数の児童ができています。[A²(1) 100%、A²(2) 92.3%、A²(4) 96.2%]
- ◇式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができています。[A⁸ 100%]
- ◆示された三角形が二等辺三角形のなる根拠となる円の性質が理解できていない児童が多い。[A⁵(1) 38.5%]
- ◆見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解できていない児童が多い。[A⁶(2) 53.8%]

(2) 算数B (活用)

- ◇平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを正しく判断することは、全児童が理解できています。[B¹(1) 100%]
- ◆二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を言葉と記号を用いて記述することに課題がある。[B¹(3) 15.4%]
- ◆示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることに課題がある。[B⁴(3) 7.7%]
- ◆概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述することに課題がある。[B⁴(3) 11.5%]

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	算数 (A)	算数 (B)
数と計算	87.4	45.2
量と測定	70.5	41.0
図形	53.8	44.5
数量関係	92.3	41.0

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

理 科

○区分における「地球」、観点における「自然事象についての知識・理解」は概ね良好であるが、区分の「物質」、「エネルギー」、「生命」、観点における「科学的な思考」、「観察・実験の技能」に課題がある。

（１）理科A（知識）

- ◇メダカの雌雄を見分ける方法を理解しているは、全国を上回っている。[2]（1）80.8%]
- ◆メスシリンダーの名称を理解できていない児童が多い。[3]（4）38.5%]
- ◆顕微鏡の名称を理解できていない児童が多く [2]（3）46.2%]、適切な操作方法が身につけていない。[2]（4）19.2%]

（２）理科B（活用）

- ◇予想が一致した場面に得られる結果を見通して実験を構想できるは、全国を上回っている。[3]（2）61.5%]
- ◇星座や雲の動きについて、観察記録を基に考察して分析できるは、全国を上回っている。[4]（4）76.9%]
- ◆水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できるに課題がある。[3]（3）38.5%]
- ◆方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できるに課題がある。[4]（1）34.6%]

平均正答率（%）

学習指導要領の区分・内容		理科
A区分	物 質	48.9
	エネルギー	58.3
B区分	生 命	51.9
	地 球	57.7

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る（青字）・下回る（赤字）

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う児童の割合は、国語・算数・理科ともに全国や県よりも小さい。

	国語	算数	理科
学校	53.8	53.9	80.8
県	59.2	66.9	82.6
全国	61.1	66.6	83.5

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う児童の割合は、国語・算数・理科ともに全国や県を上回っている。

	国語	算数	理科
学校	84.6	96.1	88.4
県	82.8	82.7	88.1
全国	82.0	81.0	87.9

(3) 授業時間以外に全く勉強しない児童の割合は、平日では0であり、全国や県よりもよい。

しかし、1時間以上勉強をしている割合は、町46.1、県61.6、国62.7であることから、学習時間の短い児童が多い。一方、休日に全く勉強をしない児童の割合は、全国や県に比べて大きい。

	平日	休日
学校	0	19.2
県	3.6	15.0
全国	3.0	10.2

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」児童の割合は、全国や県より小さい。

学校	38.5
県	56.0
全国	61.2

(5)「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した児童の割合は全国や県より小さい。

学校	50.0
県	54.0
全国	53.2

(6)今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた児童の割合は、全国や県を下回っており、地域へ関わっていこうとする意識が小さい。

学校	57.7
県	63.1
全国	66.9

(7)「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」について、「ある」「どちらかといえばある」と答えた割合は、全国や県を上回り、全員である。

学校	100
県	94.7
全国	94.5

(8)「学校に行くのは楽しいと思うか」について、「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた割合は、全国や県を上回っている。

学校	92.4
県	89.3
全国	87.0

(9)「学校のきまりを守っていますか」について、「守っている」「どちらかといえば守っている」と答えた割合は、全国や県より小さい。

学校	80.8
県	90.4
全国	91.1

(10)「平日、テレビゲーム(携帯等も含む)を2時間以上している割合は、全国や県よりも大きい。

学校	46.2
県	32.7
全国	30.2

4 調査結果を踏まえた改善方策

(1) 国語

A問題では、漢字の読む、書くは、ほぼすべての児童ができていた。定着のために、基礎学タイムや漢字の博士検定に取り組んできた成果と考える。しかし、文を構成する主語と述語との照応関係を捉えるや話の内容に対する聞き方の工夫や新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える（引用という言葉が理解できていないと考える。）に課題がある。

- ① 目的や意図に応じて聞き方を工夫するためには、聞くことの学習の機会を意図的・計画的に設定して指導する必要がある。そのために、聞き方のポイントを意識させながら聞く機会を繰り返し設け、考えたことをまとめることができるように指導する。
- ② 「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることで、目的に応じて、適切に引用することができるようにすることが大切である。指導においては、「自分の考えを補説したい」、「説得力を高めたり、具体例を挙げて読み手を説得させたりしたい」などの目的意識をもたせるなど、児童が引用する必要性を十分に持てる言語活動を位置付け、課題解決の過程において取り組む。

B問題では、登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読するや目的に応じ中心となる語や文を捉えるは、多くの児童ができていたが、目的や意図に応じ、新聞の割り付けをするや文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くに課題がある。

- ① 目的や意図に応じ、新聞の割り付けをするでは、新聞記事の内容が「出来事の報告」であるのか、「調査の報告であるのか」、「紹介と案内」であるのか、内容要旨を捉える力に課題がある。新聞を書く目的や意図を明確にもたせる指導を行い、紙面全体の構成を考えながら新聞づくりに取り組む。
- ② 文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くでは、三つの条件に合わせて書かなくてはならないが、文章の大切なことを取り上げて書くことが抜けていたり、自分の経験で書いていたりしたものが見られた。よって、目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらを関係付けて、条件に合わせて書く指導に取り組む。

(2) 算数

A問題では、計算することや式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することは、相当数の児童ができていた。定着のために、基礎学タイムや補充学習に取り組んできた成果と考える。しかし、示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質が理解できていないや見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解できていない児童が多くいた。

- ① 示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断すること

に課題がある。問いを理解せずに（何を問われているのか）、また、円の性質と二等辺三角形の特徴を関連付けずに、円の特徴を選択していると考えられる。作図などの活動を通して、図形のどのような特徴を用いているかをしっかり確認させ指導する。

②見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解することに課題がある。見取図や展開図から、辺や面のつながりやそれらの位置関係を適切に捉え、立方体を想像できるようにすることが大切である。直方体を展開図で表す活動を行う際、一つの展開図だけでなく、幾つかの展開図について取り扱い、また、模型などの具体物を操作して展開したり、組み立てたりすることを通して直方体を観察し、辺や面のつながりや位置関係が想像通りになっているか確認する活動を取り入れる。その際、直方体の面と面どうしのつながりや位置関係について、具体物と展開図を関連付けて指導する。課題のあるところなので、指導者が意識をして授業に臨み、確認、習熟を図る。

B問題では、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを正しく判断することは、全児童が理解できていたが、二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を言葉と記号を用いて記述することや示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めること、概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述することに課題がある。

①二組の道のりが等しくなる根拠として、地図から平行四辺形を見つけ出し、その特徴を言葉と記号を用いて記述することに課題がある。授業において、日常の事象と図形の約束や性質を関連付けながら考えたり、説明したりする活動を多く設け指導をする。

②示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることに課題がある。図や数直線に表すことなどを通して、「比較量である増量後の量は、基準量となる増量前の量の120%に当たる」、「口の1.2倍が480だから、式は、 $\square \times 1.2 = 480$ になる。」というように数量の関係を整理して捉えた上で、基準量を求めることができるように指導し、習熟を図る。

(3) 理科

A（知識）では、メダカの雌雄を見分ける方法を理解しているは、全国を上回っているが、メスシリンダーの名称や顕微鏡の名称が理解できておらず、名称が言葉として出てこずに、無答が多くなっている。また、適切な操作方法が身につけていないことが課題である。

①メスシリンダーの名称や顕微鏡の名称ができていないについて、様々な種類の器具から必要なものを自分で選択し準備するなど、器具と名称、使う目的を一致させて捉える学習活動を取り入れる。また、学習場面や日常生活など様々な機会を通して顕

微鏡を使って観察する機会を多く作っていく。さらに、理科の器具の名称や理科学用語を理解させるために、器具の整理棚に名称を書いたり、使う頻度を上げたり、名称の定着に努める。

B（活用）では、予想が一致した場面に得られる結果を見通して実験を構想できる、星座や雲の動きについて、観察記録を基に考察して分析できるは、全国を上回っているが、水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できる、方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できるに課題がある。

① 水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できるように、実験結果を基に、より妥当な考えに改善するには、実験前の自分の予想と実験で得られた結果を照らし合わせる活動を行う。自分の予想が実験結果と一致しなかった場合、予想を振り返り、見直し、再検討する手順や意欲を育てていくことが大切である。落ち着いてじっくり考えるために、このような学習の機会を多く作り、一つ一つ確認していく。

② 方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できるように、月や星の観察は、夜間に家庭で行うことが多い。観察前の授業において、方位磁石の使い方や方位の確認を徹底して指導し定着をさせておく。

記述式は、全国を上回っているか、ほぼ同等でありがんで答えていたが、時間配分ができずに、最後の問題まで行き届かなかった児童も数名いた。4（5）、4（6）の無答率が上がる結果となった。

落ち着いて、じっくり考えることが苦手な児童が多いので、「考え、書かせる時間」を保障していく。さらに、実験・観察の方法（仮説、実験、考察、まとめ）を身に付けさせるために、繰り返し実験、観察を行い定着を図っていく。また、定着を図るため、定期的に復習の時間を取り入れていく。

（４）質問紙

質問紙では、（７）「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」について、「ある」「どちらかといえばある」と答えた割合は、全国や県を上回り、「ある」「どちらかといえばある」と全員が答えている。（８）「学校に行くのは楽しいと思うか」について、「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた割合は、全国や県を上回っている。等のよさが見られたが、（１）勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う児童の割合は、国語・算数、理科ともに全国や県よりも小さい。（３）１時間以上勉強をしている割合は低く、学習時間の短い児童が多い。また、休日に全く勉強をしない児童の割合は、全国や県に比べて大きい。（１０）「平日、テレビゲーム（携帯等も含む）を２時間以上している割合は、全国や県よりも大きい。という課題が見られた。

長時間ゲーム・テレビ視聴、宿題忘れや家庭学習の未定着な児童等、課題は認識で

きていたが、今回の調査によって、長時間ゲーム・テレビ視聴や家庭学習の時間が少ないという実態が明らかになったことで、さらに家庭との連携を図っていきたい。

4月より学力向上の具体的な方策として、以下の3点を重点に取り組んできた。今後実施される県到達度調査等の結果をもとに検証し、さらに修正・改善しながら、取り組んでいきたい。

① 質の高い授業づくりを組織的に進め、わかる授業、力のつく授業を創る。

- 「自ら考え、学び合う子どもをめざして～算数科を通して自分の考えを表現できる子どもの育成～」を研究主題として、全教員が、一人1回以上の研究授業を行い、教員が互いに参観し協議を行う。
- 一時間の授業を大切にして、「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」である本時のめあての提示、自分の考えを書く時間の確保、まとめ・振り返りの時間の確保等、授業の基本スタイルを確立する。
- TT指導、少人数指導、個別指導を行い、指導方法の工夫改善を図る。
- 学力調査の分析をし、その分析結果を授業改善に生かす。
- きのくに学力定着フォローアップによる指導を有効に活用し、授業改善を図る。
- Q-Uテストを実施し、一人一人を把握することに努め、学習や生活となる学級集団づくりに取り組む。

② 全職員が学習規律を共通理解し、徹底した指導で確立を図る。

学びのセーフティーネットを充実する。

- 学習規律を徹底する。
- 基礎学タイム、補充学習の時間（隔週：4～6年）、放課後や夏季休業中での補充学習を実施し、担任のみならず、組織として取り組み、基礎学力の定着を図る。
- 定期的な既習学習内容の復習やチャレンジ確認シートの活用の徹底を図る。
- 読書環境を整え、読書活動の充実を図る。集会での図書委員による「おすすめの本の紹介」「新刊図書の紹介」「図書委員による読み聞かせ」、地域の方々による「読み聞かせ」等を行い、読書活動の意欲付けを図る。

③ 家庭学習の習慣化に取り組む。

- 家庭学習の点検をし、宿題忘れ等、家庭と連携するとともに、家庭学習の手引き（保護者向け、児童向け）を学期ごとに配布し、学習習慣の確立を図る。
- 自主学習の習慣を身に付けさせるとともに、漢字博士検定試験を学期ごとに行うなど、学習意欲の向上を図る。
- 基本的な生活習慣の確立のため、長時間ゲーム、テレビ視聴等の弊害について、個別面談や様々な機会に家庭への啓発を行う等、家庭との連携を図る。

※一部を取り出しての2次利用、また再配布を禁ず。 印南町教育委員会